

第39回「東南アジア青年の船」事業既参加青年による事後活動 課外授業～未来の自分を想像しよう～

2013年11月18日、第39回「東南アジア青年の船」事業の既参加青年23名が、一青年の母校である三重県四日市市の学校法人暁学園にて154名の生徒を対象に「課外授業～未来の自分を想像しよう～」を実施しました。既参加青年は、事業を通じて、「多様性」の大切さや多様性を有する社会が持つ「可能性」を学び、さらに、このような社会を創るためには、一人一人が持つ「違い」や「個性」を尊重し、いかすことが必要であると考え、授業を行いました。授業では、本事業で感じた多様性を紹介し、プレゼンテーションを通じて一つのロールモデルとなる生き方を高校生へ提示し、自らの人生の選択肢を広げ、個性をいかして社会に積極的に参画する人材を増やすことをねらいました。

バイタリティ溢れる授業

学校法人暁学園

暁中学校・高等学校 第4学年主任 行方 一也

遠路はるばる三重の地まで足をお運びいただき、誠にありがとうございました。

今回は、本校で行っている総合的な学習の時間「人間たれ」の一環としての実施でした。

効果的であったと感じられる点は二つあります。冒頭で本校卒業生によるビデオレターで受講者の気持ちをつかんだところ。身近な人が国際的な活動に参加しているという点に多くの生徒が興味や関心を抱いたと思います。そして、手際の良いプレゼン後に、生徒と青年たちのコミュニケーション活動によって大いに盛り上がり、授業を活発にさせていました。

どこかよそごとのように考えがちな国際社会や国際的な活動をぐっと身近に感じさせてくれた今回の取組は、今後もぜひ、続けていただけると幸いです。



既参加青年のプレゼンテーション



プレゼンテーションを聴く高校生

成果と感想

「東南アジア青年の船」事業の意義と魅力を理解し、「生徒たちには色々な機会を与えたい。選択肢を広げてあげたい。是非おもしろい」と積極的に開放的な姿勢で快く我々を受け入れて下さった暁高等学校の教職員の方々に心から感謝の意を表したい。

オープニング映像を、目を輝かせて前のめりで見つめていた女子生徒の姿、プログラム終了後、「声楽家になりたい。猛烈に練習することに決めた」と得意気に話してくれた男子生徒の笑顔が次なる活動への原動力となるだろう。今回のプログラムが一人でも多くの高校生にとって自らの希望と夢を見つめ、その実現のための一歩を踏み出す契機となれば幸いである。

また、我々にとっても大きな一歩となる日であった。事業終了後、各々が忙しい毎日を送っているにもかかわらず、当日は23名がかけつけ運営にあたった。事業の間は裏方に回ることが多かった者が発表者を務めるなど、仲間の新たな姿を見る機会にもなった。教職員からも「すばらしいチームワークだった」と評価をいただき、我々の絆の深まりを実感し、個々の強い主体性を再認識することができた。終了直後に改善点や反省点を積極的に言い合う中で感じたのは、「終わり」ではなく「ここから始まり」という雰囲気であった。「この仲間と次は何をしようか、次は一体どんなことができるのだろうか」という期待感と共に初回を締めくくることができ、嬉しく思う。

実行委員長 田畑 尚子

